

## 【令和6年度九州地区漁港漁場協議会講演録】

期 日：令和6年 7月 4日

場 所：対馬グランドホテル

### 海の困りごとを“商い”に ～ 海業のストーリー

(有) 丸徳水産 専務 **犬東 ゆかり**



#### 1 はじめに(海の中の困りごと)

皆さん、こんにちは。ようこそ、対馬へお越しください、ありがとうございます。私は、有限会社 丸徳水産の犬東です。対馬で一番のおしゃべりおばさんです。きっと、長崎県でも一番かなと思うぐらいのおしゃべりなのですが、今から、「海の困りごとを商いに」という表題をつけさせていただいたのですが、対馬の海には、たくさんの困りごとがあります。

では、その困りごとに蓋をしてしまうのではなくて、その困りごとを有効に活用しようというところを今日はお話をさせていただきたいなと思います。

先ほどから、皆さん、ブルーカーボンだったり、藻場の話だったり、磯焼けの話だったり、議題に上がっていましたが、対馬も例外ではないのです。非常に磯焼けが進んでいます。皆さんは、現地で海に入って、磯焼け見られたことありますか？ なかなか磯焼けについて机上で発言されていても、実際に磯焼けを見る機会はないと思います。では、今日は、(スクリーンで)対馬の私どもの海の中を覗いてもらいますが、ノコギリモクがあるところは対馬島内でも稀です。ノコギリモクでさえも残っていれば、非常にいいのです。ほとんどが、今から画面に現れるこういう風な砂漠のようになっている磯焼けのところがほとんどなのです。



フトイヌズミの群れ



ノコギリモクの幼体

そして、対馬ではその大事な私どもの海藻を食べてしまう食害魚がいて、イスズミなのですが、これもうちの近くで、2019年のものです。これはアイゴです。これは定置網ですけど、中はほとんどアイゴと言っていいほどアイゴばかり入っています。対馬弁で「こらほど\*」のアイゴと言います。

(注) \* 「これぐらい」 多いの意味



## 2 対馬市の食害魚対策 ～地域が一体となった仕組み～

「こらほど」アイゴだったり、イスズミだったりが多いため、対馬市では独自の対策を講じられており、これは全国的にない仕組みだと思っています。対馬市には食害魚と呼ばれる魚たちを集める仕組みが出来ました。集める仕組みの中に、定置網で獲るところにもお金が落ちる。

では、獲りました。では、運びます。物流業者にもお金が落ちる。そして、うちの加工場に運ばれました。加工業者にもお金が落ちる。そこで、加工するにもマンパワーが足りない時があります。多い時は食害魚が5tやってきます。1回で5tをどうしよう。もう、今日は2tしかさばけない。じゃあ、残りの3tは保管しようと思いますが、うちも加工場も経営していますので冷凍庫はもちろんあります。でも、入りきらないという時には、民間の冷凍会社が「持っておいで、いいよ。」と言ってくれるのです。それで、保管するところにもお金が落ちるのです。WIN・WIN（ウィンウィン）の関係なのです。この集まる仕組みが、非常に素晴らしくできています。

そういうことで、去年は、26.4t、うちが受け取って有効に活用しました。有効とは食用のことです。食べてもらうように活用しています。これは、全国的にも類を見ない取り組みだと自負しています。「比田勝市長、きっとそうですよね！」

この食害魚たちが、特にイスズミがどれくらい海藻を食べているのかというところで、（スクリーンで）このように海藻をたっぷり食べているのです。こんなに非常に食べています。対馬のイスズミは3キロアップにも大きくなります。



### 海藻たっぷり食べている



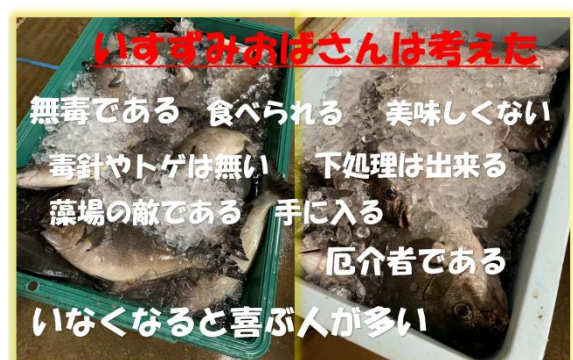
### 3 試行錯誤からブレイクスルーへ

それでも、以前では、食害魚は駆除されて、ほとんどが焼却処分されていました。よくてもたい肥だったのです。そこで、2019年（令和元年）、対馬市水産課の方とコーディネーターの方が、突然私のもとにお見えになりました。話を伺うと、「イスズミをどうかしちやいけど、誰に言ったらよかろうか？」と言って、対馬中、聞いて回られたそうです。すると「犬束さんのところへ行きなさい。」と言われ、丸徳水産が自然と活用の取組みに関与することとなりました。

私は、島内で2016年からイスズミを駆除されているというのを聞いて、とにかくおばあちゃんなので、もったいないと思っていました。では、有効に活用しようというところで、もうすでに試作品程度を作っていたのです。それで、その繋がりもあってお声かけをいただいたようです。

そこで、2019年からこれ本格的に気合い入れてやりました。その時、特にわたくしは「イスズミおばさん」としても、試作品を完成させるにはどうしようと非常に考えたわけです。イスズミは無毒ですが、でも美味しくない。私は魚がさばける。下処理はできる。イスズミについてはアイゴにある毒針や棘もない。手に入れやすいし、いなくなれば皆さんや、対馬の人は喜ぶこと間違いなしです。この非常な厄介者の有効活用の課題をいただいて、本当、～ 対馬一イケメンの愛する夫がハズバンドです。～ その夫のことも忘れ、試作品を2019年からいろんなものを本格的に作りしました。また、会社は飲食店もしているのですが、飲食店の本業のことも忘れ、もう8割～9割は、イスズミのことしか考えていませんでした。これは事実です。イスズミがどうしたら美味しくなるのだろう。この臭い魚がどうしたら有効に活用できて、入り口はあるけど出口はどうしたらできるのだろう。明けても暮れても一年間そのことだけを考えつづけ、試行錯誤の日々でしたが前進することのみを考え続けました。

当時は、とにかくさばくしかないのです。このようにどんどん入って来る。もうとにかくさばくしかない。しかし、自分は魚がさばけたのです。さばいてさばいて、さばきました。来る日も来る



**捌くしかない!!**





日もさばきました。さばいたら、だいたいこういろんな感じがわかってくるのですね。（スライド）この満面の笑みで見てください。問題解決への確信を得たころの自分です。

ところで、五年も経てば（自分を指さし）、こうなります。女子も怖いけど、皆さん男子も怖いですよ。真ん中の写真から比べると、五年も経つとこんなになります。こういうふう頑張ってさばきました。

ここで、2019 年から五年間でずっと活用したのがあります。日頃、その食害魚のことだけではなくて、皆さんご存知と思うのですが、マインドマップというのを活用しました。これは、皆さん方もいろんなことで活用していただけるといいと思います。このマインドマップには、まず、イスズミを、真ん中にこう書いて、いろいろ矢印作っていくのです。食べない、もったいないとか、商品化、タンパク、貴重なタンパク源だとか、いろいろ、真ん中のイスズミから、いろんなことへ行くのです。

例えば、ここにいらっしゃる会場の方も、部下が言うこと聞かないとか、田中部長さん、真ん中に部下が言うこと聞かない。どうしようと、こう矢印使うとかいろいろ書いてですね。皆さん、このマインドマップ活用されたいかがでしょうか。例えば、長崎県の水揚げ、魚が非常に少なくなっているとお聞きしています。でも、長崎県内でイスズミ、アイゴを取れているのです。新たなタンパク質になるのではないか。新たな水産資源になるのではないかっていう逆転の発想もあり、有効に活用しています。

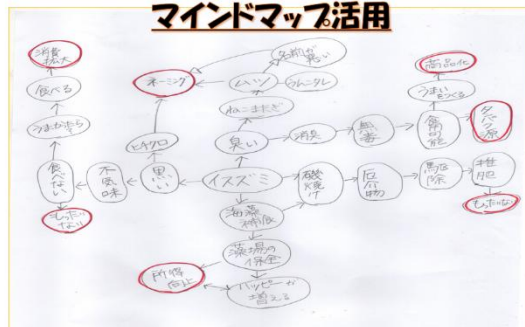
#### 4 商品化の取組み ～「味方を作ろう作戦」～

一応、イスズミのさばき方の課題を乗り越えましたが、これからが問題です。今まで食べなかったイスズミをだれが食べるのかということです。このため、いろんな料理を作るわけです。飲食店もしていますので、料理についてはちょっと得意なのです。ですから、こういうふういろんなものを作りまし

### 奮闘！



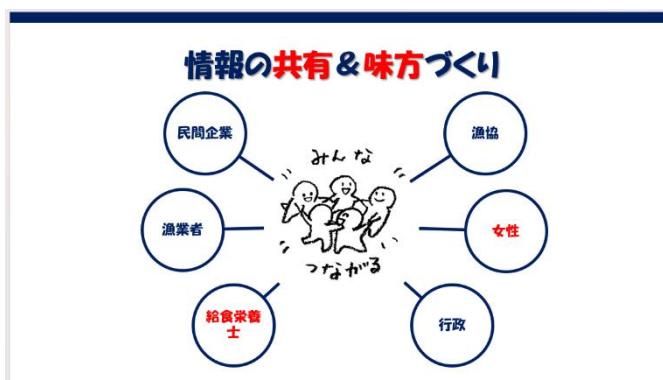
### マインドマップ活用



た。いろんなものを作りはしたが、どうしたらいいのだろうと、次は皆に食べてもらう魚食普及が新たな課題となりました。

そこで、「味方を作ろう作戦」を作るわけです。頼りになる味方を作るんですね。この味方づくりが何事も大事だと思っています。課題解決のストーリーからあらゆることを共有するのです。課題を共有する対馬市の水産課は私からの電話がかかってくると嫌だったと思います。2019 年はかなりかけました。もう交換士の方も、この声の宛先は水産課かなって思うぐらいかけました。そして、学校給食の先生方も巻き込むわけです。給食の先生方に、食べてもらうのです。すると給食の先生方が、もう皆さんいい方ばかりで、五年経った今でも応援団です。今でも、対馬市の学校給食には食害魚が出るのです。ずっと 15 年間出ています。子どもたちも、ちゃんと食べてくれるのです。ここは、ほんと味方作りが大事です。

漁業者も巻き込みました。私はこのように口がうまいです。ですから、漁業者もいろんな方を巻き込んで、漁協組合長も巻き込みました。そういうふうにして、何度も何度も試食会を重ねるのです。（スライド）この方ですね、こちらの端にいらっしゃる方で、うちの漁協組合長、前の組合長です。当時、組合長の携帯電話には、着信「犬束ゆかり」と出て、もう奥さんが、愛人じゃないかなっていうぐらい電話をしました。「組合長、今どこですか？ 組合長、こんな品が出来たのですが、食べてみませんか？」、「いや、犬束さん、またイスズミやろ！！」と言われましたけど、それぐらい熱くなるならないと組合長はこっち向いてくれないので、もうすぐにいろんなことを共有するのですね。比田勝市長にも、試作品できると市長室に預け、これ市長にお願いしますって言って、じゃあこの便で預けようとかって言いながら作って食べてもらうのですね。何より、ここの漁協組合長会で食べてもらうことにしました。それで、「組合長会で試食会開かせてください。」と言うと、当初、ダメって言われました。女人禁制、部外者禁制だそうです。ねえ、今時そんなことありますか？ 女人禁制ですよ。（臨席の）植木組合長、どうでしょう。ここ対馬の地元の組合長がお見えですけど、じゃあ私も、組合長さんたちに負けておられ



ません。組合長会の開始前だったらいいじゃないか。そうでしょう。組合長会が始まる前だったらいいと思って、鍋とお椀と試作品、フライパン、卓上コンロ持って出かけました。そして、（試作品を）バーって並べて、バーっと話して、この時にうちの漁協組合長を味方につけていたので、組合長がこう色々ですね、他の組合長を丸め込んでくれるのです。それで、イスズミは食べられるのだ、有効に活用できるのだってということが対馬中の組合長さん方がわかっていただいたわけです。だからこういうふうに共有は大事だと思っています。真ん中の下の写真は、漁協女性部です。女性部の研修会でも、私、漁協女性部の対馬の会長を22年ぐらいしています。ですから、36歳の時からやっていますので、ずっと食べてもらって、こういうふうに味方をつけていきました。



## 5 新たなプロジェクト始動 ～「そう介プロジェクト」～

そこで、食害魚のイスズミに名前をつけるのですね。そこで、「そう介」という名前つけた。イスズミになんとか殿とか、なんとか姫とかつけても、名前負けてして売れないと思ったのですね。私は商売人でございます。だから、あのイスズミには物語が必要だと。創意工夫で美味しい惣菜に変わるっていう物語を作って、介護の介が損なことを助けるっていうところで「そう介」とつけました。これは藻場を守るという壮大なプロジェクトであるというところのそう（藻）も引っ掛けました。「そう介」のメンチカツっていうものを作りました。



## そう介メンチカツの誕生！！





子どもたちも大好評です。これが給食で出ると非常に喜びます。うちの飲食店も、テイクアウトでも出るし、もう本当よく注文いただいています。大人気商品になりました。2019年のファーストフィッシュ部門に出た時に、漁業者からとか「フィッシュワングランプリで出るんですか？」と言われるのです。「イスズミで何かしよるけど、なんができるげなか！」とか「おなごがなんかできるげなか！」と、2019年、対馬弁でそう言われました。それで、私と私の心に炎がついて、メラメラとですね、頑張るぞっていう感じでやって、見事グランプリいただきました。（皆さん、拍手！）



それで、この時、グランプリでもいただいたのですが、私は自称を日本一だと思っていることがあります。ほとんど毎日何かしらその食害魚と関わっている。飲食店でも毎日毎日食害魚を売っている。もうそれから、小中高生に食害魚の話をしたりとか、海のことを話したりしている回数だったりとか、いろんな方に話しているのとか、絶対日本で一番よねって思っています。そして何より、新たな食材にするのだという意欲。これは、誰にも負けていないと思います。次のライバルが現れても、私には勝てないと思います。

**食害魚の自称日本一かな自画自賛**

- ・ほとんど毎日何かしら食害魚と関わっている
- ・食害魚料理の、種類、作った回数、量
- ・毎日食害魚を加工してお金に換えている
- ・食べて、食べて、と試食を押し付けた回数
- ・小中高生相手に食害魚の事話した回数
- ・市役所水産課に食害魚の事で電話した回数
- ・食害魚を新たな食材にする意欲

それから、いろんなピンチが、今、対馬の海の中、問題があります。このピンチをチャンスに変えようと。対馬は、天然の海藻が非常に豊かでした。特にヒジキとか、もうほんとワサワサでした。でも、もう今は皆無です。なら、作ればいい。養殖すればいい。しかし、一方で漁村のマンパワー足りない、マンパワーが足りないという話はよく聞きます。じゃあ、SNSで、種付けと収穫のボランティアを募れ

## ピンチをチャンスに

### 企画その3 天然がないなら養殖で 収穫ボランティアで労働力確保

ばいいのだろうというところで、こうしてチャレンジする。あのロープに、種糸をまいてしまった。種付けも、近頃ではボランティアを募ります。収穫は、人気で非常にボランティアの数が多いです。もう喜んでやりたいと、もうすぐに締め切らないと定員いっぱいになってしまうのです。

陸で生活する人は、漁業者の日常は非日常で、もう楽しくて仕方がないのです。そういうところで、こういうふうに収穫しますが、島の海にはまだまだ食害に遭わないように囲ってあげれば、海にはまだ育てる力があるのです。

それで、私たちが諦めると全部終わってしまうのです。諦めたらいけないのです。私は食害魚のイスズミやアイゴを根絶やしにしようとは毛頭思っていない。食圧と海藻の生育バランスが合えばいいのです。そこをやっていかなくちやいけない。それから海藻が磯焼けでないという。いや、磯焼けが進んでいることで海藻がないですね。するとウニの身入りが悪くなる。じゃあ、ウニの身入りが悪いなら、海の中でウニの養殖をすればよい訳です。ウニの養殖は、自社の飲食店で出るキャベツの廃材と地元のスーパーが協力してくれ、キャベツの外側を取っていき、それで養殖しています。ただのものでやっています。



### 大量収穫 海にはまだ育てる力がある！



### 飲食部と地元スーパーの協力で



## 6 地域資源を海業へ(新たなるチャレンジ)

これからがちょっと皆さん本題です。海では、沿岸の漁業者はもう非常に所得が減っています。海藻はなくなって、特に素潜りとか大変なことになっています。アワビも取れない。ツシマヤマネコって皆さんね、さっき資料の中にあ



ったと思いますけど、ツシマヤマネコに会うより、対馬のアワビに会う方が難しいです。それぐらい潜っても取れません。サザエも非常に少なくなりました。それだったら、そういう一番弱い漁業者を観光のアテンドに仕立てればいいのだ。ある日、ビビビビって神が降りてくるのです。で、これを漁業者に話すのです。話すのですが、なかなか漁業者は手ごわいのです。

海を学ぶその体験型ツアーを企画しました。漁業者にアテンドしてくださいとお願いするのです。「じゃあ何をアテンドすると?」「あの、磯やけを見せてください。」と言って、「はあ、磯やけ見せんとや。なんでそっで面白いんが?」と言われるのです。「いや、海ゴミも見せましょう。」「海ゴミ見せて、なんが楽しいげな。ゴミやなんや見せて!」ってと言われるのです。「いやいや、そう言わんとして。そして、その台風でずれた防波堤を見てもらいましょう。」とかね。そして、「イスズミのお腹も割って、食害がどんなにひどいものか、中の匂いも嗅いでもらいましょう。」って言うのです。漁業者から全部否定されました。でも、「私に騙されたと思ってください。」と、「ここ一年間の投資はですね、うちの会社が持ちましょう。」と、漁船保険代金、「いやもううちが持ちます。」とね、一年で遊漁船の登録、「じゃあうちが申請します。」、書いたり読んだりには不得意です。漁業者ですね、どっちかというところ、「じゃあもうそれは私たちがやりましょう。」と、「いろいろいろいろですね、諸手続きはもう私たちがやります。」

しかし、「海上保安部呼びますので、救難事故の対応とか、ライフジャケット着用のこととか、勉強会にはぜひ出てください。」と言ったら出てくるのです。こう出てきてくれて、「じゃあいいですかやりますよ。」っていうところで、ゴーがでる。2時間半のツアーです。いろいろいろいろ学習してもらいます。海ゴミ見てもら

## ピンチをチャンスに

### 企画その4 漁業者×観光ツアー

手ごわい相手との戦い

#### 海を学ぶ体験型ツアーの企画

漁業者がアテンドする  
投資を少なく、手持ちの漁船で  
海ゴミ、磯焼けを見せてお金を稼ぐ  
時にはガンガゼ駆除作業もしてもら  
マクロのイサヤイ体験  
波で浸食された岩肌、台風でずれた防波堤  
殿様釣り

漁業者の変化

#### 海を学ぶ体験型ツアーの開始





う。磯焼け見てもらう。防波堤も見てもらう、ガンガゼも見てもらう。どうかしたら駆除までさせています。最後に、楽しみの釣りが待っている。その2時間半ぐらいで7,500円です。お一人ですね、乗せると7,500円お客様にいただいています。でも安いって言って、「こんなね、楽しいことはない。そしてこんな勉強になったことはない。」とって言うってお釣りはいらないっていう方が結構いらっしゃいます。リピーターで4回乗られた方がいます。皆さん、今日は7,500円のツアーのちょっと動画を披露します。今から船に乗った気分でライフジャケットつけた気分で、うちの宣伝用の動画を今から流します。（ビデオ放映）

マグロの餌やり体験もできます。漂着ゴミも見てもらいます。そういうふうにして、いろいろとあの様な体験をしてもらえます。マグロに餌やりをすると、もう非常に喜ばれるのですよね。それで、漂着ゴミを見てもらおうと、私たちが陸で生活する者たちがどうしたらいいのだろうっていう問題提議ができて、大手企業さんの研修視察で非常に受け入れが多いですね。お隣は韓国からも、環境問題に興味がある方の団体さんとかが入ってこられました。最近では、韓国日報から私たちがやっている取り組みの取材が、この12日に取材を受ける予定にもなっています。

次の課題として、先ほどから田中部長さんがいろいろお話になっていました。その旅行の施設ですね。もう今、漁師さんが非常に少なくなっています。漁協が合併して、漁協の建物だったところは幽閉施設になっています。対馬も例外ではありません。きっとお隣の壱岐も五島もそうだと思います。各県でもそうじゃないでしょうか。それで漁村に交流人口を増やすために、宿泊施設、の漁協が持っていた幽閉施設を宿泊施設に変えようと思っています。それ今まさしく申請の途中ざいます。よろしくおします。なかなかこれ一ドルが高くて、もう当、普通はですね、心が折れないポジティブな私も、もう何度か、心折れそうな申請書の書類の作成だったりとか、漁村の皆さんへの説明だったり、地域住民の方へだったり、もういろいろ申請は大変だけど、でもここは、一個一個クリアしていった、交流人口を増やすために、漁村で今も寂れていっているところに火がともるようなそういうイメージをして宿泊施設の検討に取り掛かっています。

## ハードルの高さに何度も心が折れそう

使用目的及び用途変更

土地と建物が別々の補助金が入っている

財産処分

漁協理事の同意及び支所の同意

地元住民の同意

申請後のかかる時間

自信の喪失

全国的な問題  
解決の糸口

## ピンチをチャンスに

### 企画その5

漁村(漁協幽閉施設) × 宿泊

漁村の活性化をめざし

増や  
漁村  
閉施  
うと  
で、  
でご  
願い  
もハ  
本

## 新たなる分野へ

事務所及びゲストハウスの位置図



○ゲストハウス外観写真・内観写真



## 7 結びに(「三方よし」の精神に学ぶ)

最後にですが、私たち漁業者は、継ぎ手がおらん、継ぎ手がおらんっていう話をよくされます。私はこういうふうにロウマなので、3人の息子が並んでいるのですが、3人とも各部門を継いでいます。真ん中が満面の笑顔なのは、愛するハズバンドなのですけどね。私は彼を食害魚と同じように、彼が亡くなる直前まで有効に活用しようと思っています。彼もそれは分かっていると思います。彼は彼で私を有効に活用しようと思っています。どっちが、最後まで活用できるのでしょうか(笑)。



今、私たち丸徳水産は正直言ってちゃんと利益が取れています。子どもたちにも、人並みに給与も払って賞与も払って、休みもやります。そういう企業になるためには、「三方よし」の商売、これ非常に大事だと思います。買い手良し、売り手良し、世間良し。このどこかが欠けても、長続きしないと思います。36歳の時に法人化して、何にもない行商から始めました。本当に、海水を汲むポンプさえなくて、バケツに紐つけてつるべを作って、加工をしました。イカの加工をして、アジの干物を作って、そしてそれを売りに回って今日に至りました。当時、借金抱えて、主人は脱サラして素潜りになり、子供を産んだばかりで、どうしようと思ったあの頃があります。でも、私たちだけ良くなったって何にも生まれないのです。地元と一緒に良くなれないと、地元が応援してくれないと何にも生まれない。もう子どもたちには、口を酸っぱくして言っています。漁業者に伝えたいことは、儲ける商いをすればいいんだ。そこにはヒントがいろんなところに落ちているのじゃないかなと、困りごとにも有効に活用すれば、商売になるのじゃないか。まずは子どもたちに誇れる商売をして、後継者を作ること大事な一つじゃないかなと、このおしゃべりな私は思い、あちこちでしゃべっています。



どうもご清聴のありがとうございます。

#### 【犬束ゆかり氏からのお知らせ：2025 年8月】

「対馬では(特に美津島町漁協にて)藻場の回復が見られるところが出てきました。今年8月上旬に撮影されたものです。」



ホンダワラの仲間（対馬市美津島町 2025）



ホンダワラの群落（対馬市美津島町 2025）



水イカ（アオリイカ）の卵（卵嚢）

#### 【あとがき】

本講演は、令和6年度九州地区漁港漁場協議会の場において発表され、会場では犬束氏のユーモアを交えた前向きな話題で予定時間を大幅に超過するほど大変な盛り上がりを見せました。

県内各地では、海業振興をはじめ地域での実践活動に取り組まれているところですが、氏の卓越した行動力をはじめ課題解決に向けた実践活動のプロセスは大変参考となるものであり、今回、講演録にとりまとめご紹介するものです。